㉒ 安富北地区

奥播磨ふるさとかかしの里

行った日

関地区のあちこちに、山あいの村の景色によくあう「かかし」がおかれていて、訪れる人々にいやしとなごみを与えてくれています。このかかしを見るために近畿地方のあちらこちらからたくさんの人が訪れるようになり、地域の活性化にも大変役立っています。

グリーンステーション鹿ケ壺

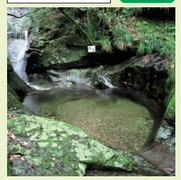
行った日

鹿ケ壺を中心とした関地区一帯をグリーンステーション鹿ケ壺とよんでいます。食堂や大広間、バーベキュー棟などが利用できる鹿ケ壺山荘のほかコテージやオートキャンプ場、多目的広場があります。「ふれあいの館」は、コンサートや展示ルームとして利用できます。ハイキングコースも整備されています。

鹿ケ壺

行った日

県の指定名勝（風景のすぐれたところ）です。岩に、長い年月の間に水の力でできた穴が十数個あいています。「鹿ケ壺」の名前は、一番上流にある穴が、鹿が寝ている姿に似ていることからつけられました。一番深い穴には「底なし壺」など、それぞれの穴に名前がつけられています。



末広のアンモナイトとフズリナ

行った日

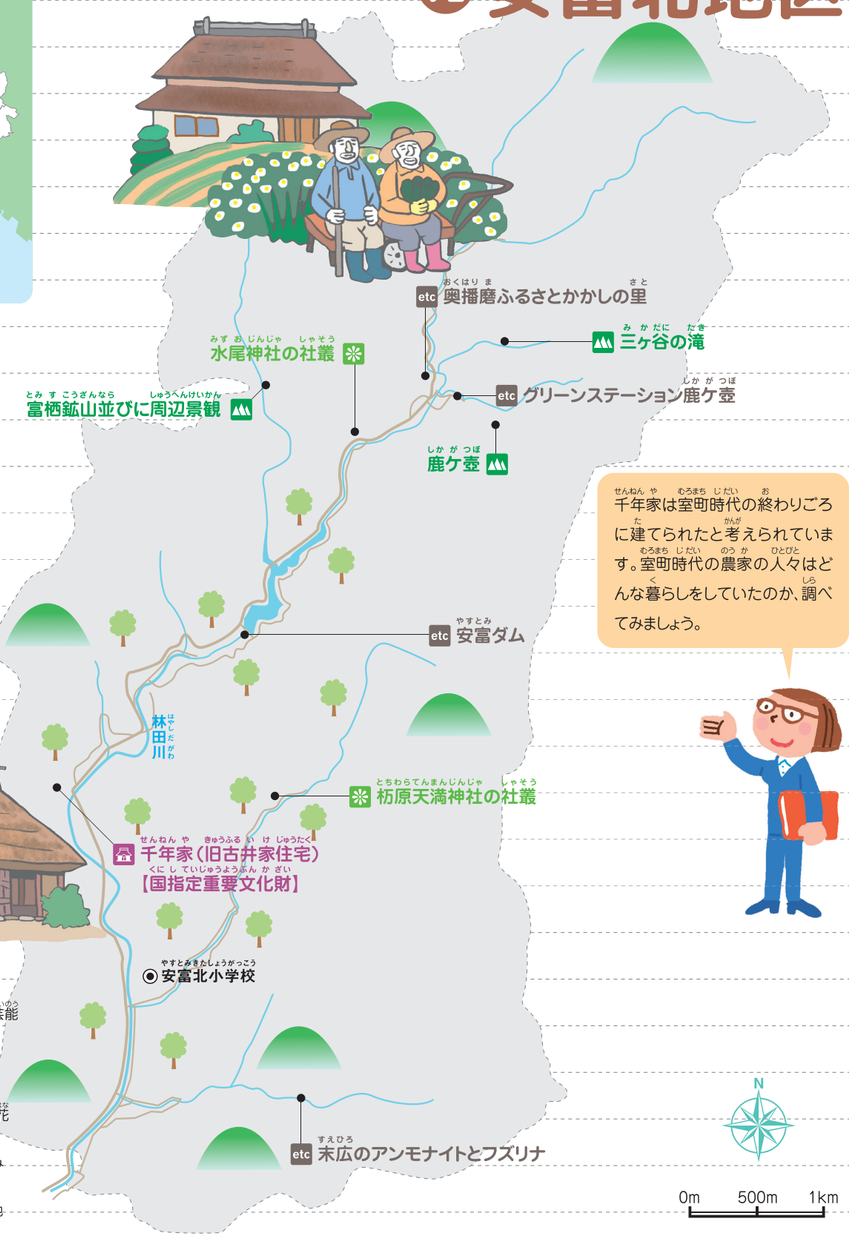
昭和28年（1953）の林道工事のときに、アンモナイトの殻が発見されました。京都大学の調査では、アンモナイトは発見されず、フズリナ化石が新たに発見されました。このあたりが大昔は海の底だったところが盛り上がってできた土地であることを証明する貴重なものです。

千年家（旧古井家住宅）【国指定重要文化財】

行った日

室町時代の終わりごろに建てられたと考えられています。入母屋造り、茅葺き屋根の住宅です。神戸の箱木家住宅とともに、最も古い中世の農家の建物と認められています。床下には亀石という大きな岩があり、厄よけとしてまつられています。国の重要文化財に指定されています。

調べたこと、分かったことを書いてみよう!



千年家は室町時代の終わりごろに建てられたと考えられています。室町時代の農家の人々はどんな暮らしをしていたのか、調べてみましょう。

栃原天満神社の社叢

行った日

常緑広葉樹におおわれた神社の森は、一次林（自然の力でできた森林）が残っていて、学問上価値が高いものです。スダシイ・サカキ・アラカシなど高い木々が集まった林で、林田川の最も上流の地域にあるシイ林です。西播地域では数少ない、見本のようなシイ林でもあります。

富栖鉱山並びに周辺景観

行った日

市内でただ一つの本格的な金を掘る鉱山で、掘られた長さは約16km以上になります。今は掘られておらず、坑道は閉められていますが、発生するラドンを利用した日本でただ一つの免疫ホルミシス坑道があります。モリアオガエル、オオルリなども住んでいて、自然豊かな環境が残っています。

三ケ谷の滝

行った日

谷川沿いの遊歩道を登ると正面に見えてくる、落差約20mの滝です。横に長く切り立った岩盤に水が白く流れ落ちる様子はたいへん美しく、訪れる人に安らぎを与えてくれます。滝の中ほどには、水不足のときに雨を降らせてほしいとお祈りしたといわれる不動明王がまつられています。

水尾神社の社叢

行った日

暦応元年（1338）に建てられ、17世紀に建て直された水尾神社の森には、県の天然記念物に指定されている大スギや、アラカシ・アサダなどの大きな木が自然に生えています。ヒメボタル・ヒメハルゼミも住んでいて、近くの水尾公園にも貴重な水生生物が住んでいます。まさに自然の宝箱です。

安富ダム

行った日

昭和61年（1986）に完成した重力式コンクリートダムで、本体の高さ約50m、長さ約145m、水をためられる量は295万㎥です。洪水が起きないように水を調節するためのものです。周りは山に囲まれ、水面も美しく、季節ごとの景色を楽しみながらダムの周りを歩くことができます。